

Quarterly
クォーターリー

高千穂

冬号

2013/1 Vol.40

特集 平成25年 高千穂学園創立110周年記念
新春座談会



TAKACHIHO UNIVERSITY



Quarterly
クォーターリー

高千穂

Vol. 40 | 2013/1

Contents

3	Message 新春 祝、学園創立110周年 理事長 藤井 耐 年頭のご挨拶 学長 成田 博
4	特集 平成25年 高千穂学園創立110周年記念 新春座談会
8	TAKACHIHO Information ゼミ発表会を終えて プレゼンコンテスト受賞者発表
10	TAKACHIHO Report 平成25年度入試関連状況報告 平成24年度オープンキャンパスレポート
12	TAKACHIHO Report 誌上就職活動体験記&就職活動情報
14	TAKACHIHO History 我が教育を振り返る
15	New Books&Review 書籍紹介
16	By Air Mail 海外留学・研修レポート
17	TAKACHIHO Campus Life 学友会コーナー
20	New Director Profiles 学友会 新役員紹介
21	TAKACHIHO Information キャンパスニュース 高千穂学園同窓会 高千穂大学父母の会 編集後記

高千穂大学ソーシャルメディア 公式アカウント

facebook

<https://www.facebook.com/takachihouniversity>



[@takachihouniv](https://twitter.com/takachihouniv)



お詫び

2012年10月発行 vol.39 19ページ「平成24年度高千穂大学表彰規定及び奨学制度に関する規定に係る奨学生等一覧」小池厚之助賞 3年生 人間科学部 廣橋 優さんの氏名の表記が誤っております。お詫びして訂正いたします。

正：廣橋 優
誤：高橋 優

新春 祝、学園創立110周年

平成25年(2013年)元旦

理事長

藤井 耐



本学園創設者川田鐵彌先生による「朝礼訓話集」に本学の建学理念をみることができることは、既にご承知のことと思われます。(1) 祖先の祭礼の重視と忠孝、(2) 勤労と体育の重視、(3) 自治の精神と品性の修行、(4) 信義の重視、(5) 言行の慎みと敬意の尊重、(6) 年長者への敬意と幼者の導き、そして、(7) 志操を高くし、事の正確さを守るべきことの7訓です。現在の「学風の指針」及び「学風の目標」はこの「朝礼訓話集」を原点とし、学園創立80周年(昭和58年)に向け、昭和56年、本学園中興の祖であられる小池厚之助元理事長を中心に策定されました。本学学生(含、園児)・卒業生はもとより、本学に奉職する全ての職員・役員各位は、新年及び、学園創立110周年にあたり、改めて創設者の建学の思いを理解・受容し、本学の存続・成長のため自らの職務に専念して頂けます切望致します。

特に学生諸君には、母校高千穂大学への思いをより一層強めて頂きたいと思います。君達の成長こそが高千穂の成長であることを理解して下さい。

又、御父母の皆様方におかれましては、本年もご健勝にてお過ごしになられますよう心より御祈念申し上げます。

年頭のご挨拶

学長

成田 博



新年明けましておめでとうございます。

本年も高千穂大学の学生の皆さん、そして高千穂学園・高千穂大学・高千穂幼稚園の関係者の皆様にとって、実り多き一年となりますことを心より祈念申し上げます。

昨年も東日本大震災および原発事故の影響が残り、政治不安、景気停滞、失業率悪化など、社会・経済全般にわたって先行きの不透明感が拡大した一年となりました。本年は我が国の明るい将来に向け、新たな一歩を踏み出すための活気ある変化の年となることを期待したいと思います。

「一年の計は元旦にあり」この言葉は、新しい年を迎え、その初日である元旦に気持ちも新たに目標を設定し、その実現のための計画を立てて突き進んでいこうとの気概を示すものです。学生の皆さんにはそれぞれ思い抱いた大学時代における目標があるはずです。その目標達成への向けてのこれまでの行動を検証し、改めて自らの目標を確認あるいは再設定してください。各々の目標実現に向けて日々努力を継続し、この一年が充実した大学生活となることを心より祈念しています。

すべての皆様にとって飛躍の年となりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



藤井 耐 理事長

河合 咲
人間科学部4年 ゼミナール連合本部
(橋本産業(株)内定 青森山田高等学校出身)

川上 雄太
商学部4年 空手道部
(神奈川県警内定 川崎市立高等学校出身)

大倉 達也
経営学部4年 学友会 高千穂祭本部
((株)サムソン内定 多摩工業高等学校出身)

特集 平成25年 高千穂学園創立110周年記念 新春座談会

理事長：平成 25 年新春を迎えました。新年のご挨拶を申し上げます。川上君、大倉君、河合さんの 3 名は、この総務課からのご依頼を快諾していただき、私からもお礼を申し上げます。それでは、まず 4 年間の大学生活について皆さんのお話を聞かせてください。

川上：私が大学生活で特に頑張ったことは、ゼミナール活動と部活動です。ゼミは商学部会計コースの西山ゼミです。1 年生の時に西山先生の会計学総論を履修し、おもしろい先生だなと思い志望しました。西山ゼミはよく厳しいと言われるそうですが、逆に言えば、そう

言われるくらい、学生たちが真剣になってゼミ発表に臨みます。ゼミ発表会前には連日、夜遅くまでみんなで残り研究、準備をすることもありましたが、今となってはとてもいい思い出です。部活動は 7 歳のころから続けてきた空手道部に所属しています。入部したとき、先輩は 1 人もいなく、休部状態からの復活ということで再スタートしたのですが、年々 1 人ずつでも後輩が増え、うれしく思っています。人数が少ない中でも意識を高く持ち練習に励めたので自分としては、成果を出せたのかなと思っています。

河合：私はゼミナール連合本部で活動していました。所属した理由は大学では部活動などではなく、「東京での生活を楽しむぞ!」という気持ちだったのですが、いざ 1 年生を終えるととても物足りない気持ちになりました。そんな中ゼミナール連合本部の募集が目に入り、足を踏み入れました。ゼミ連本部は本当に忙しく、一言ではとても言い表せません。一番の思い出は、今年始まった「プレゼンコンテスト」です。私たちの目標とは途中段階ではありますが、それに向けた新イベントを実施できたのは一番の思い出です。長いゼミ連の歴史の中で明らかに大きな

変化をすることができた 2～3 年間でした。又、そこに私がいることができたことは本当にうれしいです。ちょっとしたことでもそれを実現することは大変なことであるということもわかりました。それがわかるまで自分はまだまだ子どもなんだなと思いました。

私達、ゼミ連本部の立場は大学の職員と教員と学生の間を取り持つ位置にあると思うのですが、それぞれで価値観やゼミ発表会などに対する考えが違っていて、うまくバランスをとることが今後課題になっていくと思います。

理事長：学生、職員、教員、そしてゼミナール連合本部。それぞれの立場によりそれぞれの考え方の違いもある。その違いをいかに調整しつつ、一つの結論に導いていくことの困難さ、又、それを乗り越えられたときの達成感。河合さんの言うゼミナール連合本部のメンバーとして経験されたことは、何らかの意味において今後の社会生活に役立つことになるものと思います。

河合：そうなんです。この経験や、経験する過程で得られた、力は今後必ず必要になってくると思います。それはゼミナール連合本部に所属していなければわからないことでした。

大倉：私の重要な経験は大学祭実行



委員会と学友会の2つです。高千穂祭実行委員会に入るきっかけは高校時代まで遡ります。高校3年生の時、高千穂大学に入学したら硬式野球部に入りたいと思っていましたが、交通事故に遭い、野球がもうできなくなりました。大学入学後もあまりやる気の起きない時期が続きましたが、自分自身何かに頑張っていないとダメだと思い、高千穂祭実行委員会に入りました。当時はいと比べると実行委員の人数も少なく、高千穂祭への学生や先生の関心もあまりないのではないかと感じていました。そんな中、1年生の秋から、自分が副委員長を委ねられ、引退までの2年間のスパンで今以上に良い高千穂祭を作れないものか?と考えました。去年は目標としていた来場者数も達成でき、模擬店の数も増え、多くの団体に参加していただいたことが自分の中ではとても印象に残っています。先ほど河合さんもおっしゃっていましたが、自分たちだからこそできたという気持ちが明確にあります。野球ができないからとへこたれずに、別の分野ではありますが組織に所属し、目的をもって大学生活を過ごせたことはよかったと思います。

また、学友会本部はでも学業やゼミなどでは経験のできない貴重な経験ができました。

理事長：私が大倉君に対する印象として残っているのは、大倉君が2年生4月の新入生対象のフレッシュアオリエンテーションでの進行役ですね。今年の新入生でのオリエンテーションでも進行役を担っていただいたようです。また学友会役員として、体育祭の時、多くの学生たちを動員した活動、



さらには高千穂祭に来場者を増やすための活動。これ等はまさに大倉君が4年間をかけ、高千穂大学に残してくれた貴重な実績であると思います。感謝したいと思います。

理事長：それでは就職活動の話聞きましょう。皆さんは内定をいただいているようですが、志望理由、就職活動のエピソード、あるいは、4月から社会人、組織人として自立されるわけですが、夢や不安などについて話してください。

川上：私は神奈川県警察本部の採用試験にて合格をいただくことができました。志望理由は大学2年生の時に聞いた何気ない一言でした。小学校の時から通っている空手道場に、先輩であり警視庁警察官の方がいます。その方が何気なく「警視庁で空手をやる人が最近少ないんだよね。きみ警察官目指してみない?」と言った一言です。その言葉を聞き、警察官に興味を持ち、自分でも警察官について調べ始め、魅力を感じて目指すことになりました。武道家は、一度は警察官にあこがれることがあるものと思います。

警察官は職業柄不安がつきものだと思います。4月1日からの警察学校生活における勉強、体力ともにについていけるのか。勤務についてからも、いつかは刃物や銃をもった犯罪者と遭遇することもあるのかなと思うと不安も多いです。しかし、警察官になったからには日々の訓練で相手にも屈しないよう、一所懸命備えていきたいと思っています。

交番にいる優しく、強く、そして、地域の方々に頼っていただける警察官になりたいと思っています。

河合：私は神田に本社をもつ橋本産業株式会社から内定をいただきました。3年生の11月頃に行われた大学が実施した「就活をする時の心構え」を学ぶイベントで橋本産業の松本さんという方がお話しして下さいました。松本さんをみて「あっ!」と何かを感じました。明確な理由はないのですが「私はここで働くんだ」と思ったのが一番の理由です(笑)。会社のことを調べていくうちにももちろん印象は良かったのですが、「ここで働きたい」という気持ちが段々大きくなっていきました。

理事長：橋本産業の明確な企業分析をする以前に、ここで働きたいという気持ちを生じさせるに至った理由は何で



しょうか?

河合：それが私にもよくわからないんです(笑)。松本さんの人間的な魅力は一つだと思います。橋本産業以外にもたくさんの企業にエントリーしました。決定的に違いを感じたのは、他の企業は私を「大勢いる就活生」として対応しているように感じましたが、橋本産業は私を1人の人間として、という言い方だと大袈裟かもしれませんが、働くことを前提として、選考や対応をしてくれたと感じました。1人の受験者でしかない私のことを「こんなに見てくれたんだ」というのが私の橋本産業への気持ちを確実なものにしてくれました。社会人になってから自分が担当する業務、やらせてもらうこと一つ一つを自分なりに常に工夫していきたいと思っています。それを続けた時、自分のやり方が確立できるんじゃないかなと思います。

大倉：私は香川県に本社のある機械メーカーの株式会社サムソンに内定をいただきました。私は就職活動をするにあたり、適職診断テストをあえて受けませんでした。自分のやりたいこと、能力を生かせるのは絶対に営業職だとたくさんの方に言われ続けましたし、自分でもそう思っていました。内定をいただいたサムソンはどこの企業よりも自分のことを必要としてくれていました。大学での学内企業説明会に総務部のマネージャーさんがお越しになったのですが、高千穂大学の卒業生でした。その方からは「大学の後輩から、会社の後輩になってほしい」と強い気持ちを示していただきました。

理事長：全国勤務とのことですが、たとえ勤務地はどこであろうともサムソ



ンにて職業的自立を目指したいという決意ですか？

大倉：決意としてはどこに行っても頑張らなくてはいけないというのがあります。ただ、できるだけ東京より東を希望しています。理由は東日本大震災です。私は秋田出身ですが、東北はただでさえ、過疎化が進行しているにもかかわらず、あんな大規模な災害が起きてしまいました。だからこそ、自分が東北にできることがないかをいつも考えており、会社にも伝えてあります。東京支店も東北を管轄していますので東京より東側を希望しています。ただ、どこでもやる覚悟はできています。

今後、社会人としての理想像は私の人間性を見て商品を買っていただけるようになりたいと思います。「大倉君だから買おう」と言われるように、自分のパーソナリティを認めてもらえるようになりたいです。器用なタイプではないので熱意をもって信頼していただけるとような人間になりたいです。

理事長：先ほどまでの話と重複しても

結構ですが、4年間を振り返り「大学への思い」についてお話しして頂けますか。

川上：私には感謝している方がいます。先ほど空手道部の復活の話をしていましたが、それにあたり手助けをしてくれたのが、当時学生課にいた空手道部のOBでもある長井先輩でした。高千穂大学ではよく「先生と学生の距離が近い」と聞きますが、職員の方々とともに近いと感じました。とても親身に手伝っていただき、先輩もいない中よくサポートしていただき本当に感謝しています。いま指導をしていただいている田中先輩にも感謝しています。

先輩たちのおかげで、後輩が1人ずつですが入ってくれました。先輩たちを見習い、今度は私が継続的に大学にも来て、後輩たちとともに空手道部を盛り上げていければと思っています。私自身も神奈川県警空手道部に所属し空手を続けていきます。

河合：私はゼミナール連合本部とオープンキャンパスのスタッフを経験致し

ましたが、そこで出会った職員の方たちにはたくさんのことを学びました。「君たち学生の力が必要なんだ」という熱意がすごく伝わってきました。そう思ってくれるというのが一学生としてとてもうれしかったですし、そのような職員の皆さんがいることで、私たちは4年間楽しく大学生活を過ごすことができたのかなと思っています。ゼミナール連合本部では教務1課、オープンキャンパスでは入試課の方々に大変お世話になりました。特に教務1課の北田さんにはお世話になりました。ありがとうございました。

大倉：大学ではよくイベントの司会をさせていただくことがありました。特にフレッシューズオリエンテーションでは2年生から4年生まで学生企画の司会進行をさせていただきました。そういった舞台でのチャンスをいただいたことには本当に感謝しています。

2年生の春、フレッシューズオリエンテーションの時、理事長から話しかけられ30分程度お話しさせていただきました。その時、私は緊張してなにもしゃべれなかったのですが…(笑)。そこでも感じることでできた「先生と近い」というのは大学の大きな魅力であり、それを肌で感じることでできたのでとても良かったですね。

河合：私もフレッシューズオリエンテーションにはとても思い入れがあります。フレッシューズオリエンテーションは私たちの時は泊りででした。田舎から出てきて友達ができるか本当に不安だったときに一晩一緒に過ごすことにより、心が打ち解けました。最初は行くことにも不安はあったのですがそれがあったからこそ、その後も共通の話題もでき、次の約束などできたことも田舎者の私にはとても助かり、うれしかったです。

私は学外でオリエンテーションを実施してくれた大学にとっても感謝していますし、助かりました。いまは学内で新生のオリエンテーションを実施していますが、いろいろな事情があり難しいとは思いますが、やはり学外で実施することができないかなと思います。

大倉：もうひとつ、高千穂祭のときに、もっともっと先生たちに積極的に参加していただきたいということです。特にゼミは先生の参加の意思が大きく反映されるため、学生たちが参加しやす



い雰囲気、仕組みを先生たちにも一緒に作ってもらえると、高千穂祭がより盛り上がると思います。参加した学生はみんな「面白かった!」「楽しかった!」とプラスな感想を言ってくれます。今までよりもっと高千穂祭を盛り上げるために、私たち学生とともに教員、職員のみなさんも今よりもさらに一体となり作り上げて頂きたいと思います。

理事長：最後に皆さんから後輩たちへのメッセージを聞かせてください。

川上：後輩の皆さんには4年間、目標を持ってもらいたいと思います。目標をもち、努力したその過程が間違いなく自分にプラスになります。空手道部の後輩には、あきらめずに頑張ってもらいたいです。数年後、後輩が何十人も入って大きな部になってくれることを祈っています。そのためには私も卒業してから指導に来たいと思います。

河合：私も自分に合った高い目標を持ってほしいです。自分に合った目標を探すために、常にアンテナを張っていて、最適なものを探してほしいです。ゼミ連の後輩達に言いたいことは、「君たちのやっていることは他の団体では絶対に経験できない」ということです。そのことに自信をもち活動し、就職活動や将来に役立ててもらいたいです。

大倉：後輩たちには何かひとつ「大学生活でこれだけは絶対負けないくらい頑張ったよ」と自信が持てるものをゆっくりでもいいので作り上げてほしいと思います。ゆっくりでもいいから歩き続け、勝負するときは全力で走れる準備をしておいてほしいです。卒業式の日、自分の大学生活に誇りを持てるよう、足を止めずに頑張ってください。学生は必ずそう思えるはず。逆に中途半端な学生はそう思えないのではないのでしょうか。同じ4年間なら思いつき充実した大学生活を過ごしましょう。

理事長：今日、わずか1時間程の座談会でしたが、3人に共通して言えることは、高千穂の学風の指針「常に半歩先立つ進歩性」、特に「常に半歩」を实践された学生であるということです。ゼミであれ、クラブ活動であれ、本部活動であれ、それを着実に実行されてきた、という意味において本学の学風の指針を体現化された4年生3名であったということを改めて理解する

ことができました。さらに、3人各々に対し、私のコメントを付け加えさせていただけるなら、川上君は空手道部という体育会の厳しいクラブでありながら、その内なる強い信念を持ちながら、表情はとても温厚な個性を感じました。河合さんにはこやか、かつ、素直であると同時にゼミ連活動の中で経験されてきた個人と個人の調整、組織と組織の調整を実践しつつ、その資質・能力をさらに醸成されてきた学生であるということを感じました。又、大倉君は川上君と異なり、現象的にはバイタリティックな、活動的な個性を有し、かつ内面的には、緻密さと計画性を秘め自らの役割行動を实践されてきた学生であるという印象を持ちました。

平成25年、高千穂学園が創立110周年を迎えるにあたり、本学全ての学生の知的・人格的成長を切望すると共に、本日出席して頂いた3名の皆様には、この4年間の成長に対し、改めて、学園理事長として、1人の教授として、又、1人の先輩として感謝致します。それでは、これをもちまして、今日の座談会を終了したいと思います。有難うございました。

川上・河合・大倉：ありがとうございます。

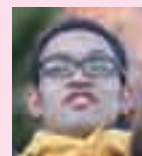


川上さんって
こんな人

立花 幸児

経営学部3年
(明法高等学校出身)

空手道部を休部から1人で復活させてくれた人です。川上先輩はとても真面目ですが真面目だけではなく優しさがあり、最高にクールで人間として目標にしたい人です。良きライバルであり、良き兄、良き友達でもあります。どんなに歳をとっても一生、川上先輩の後輩でいたいと思います。ほんとに大好きな先輩です!



河合さんって
こんな人

高梨 翔平

経営学部3年
(正則高等学校出身)

河合先輩は物事を見る視野が広くいつも私では気がつかなかったことをアドバイスしてくれます。また落ち込んでいる時には優しく話を聞いてくれます。そんな河合先輩ですがお酒が強く、いくら飲んでもケロツとしています。私の尊敬している先輩の一人です。



大倉さんって
こんな人

鳥井 康弘

経営学部3年
(府中東高等学校出身)

大倉さんはふだん同級生や後輩の私たちを笑わせようとしてモノマネやふざけた事ばかりしているような人です。しかし、いつも周りを見ていて他の人の異変に気付いてアドバイスをくれる尊敬できる先輩のうちの一人です。



衣装協力：晴れ着の丸昌 下北沢店／ヘア&メイク協力：SALON DE YOW (サロン・ド・ユーウ) 西永福本店

ゼミ発表会を終えて

ゼミナール連合本部 委員長
商学部3年(狭山経済高等学校出身)
嶋田 友香

本年度のゼミ発表会は11月5日(月)～9日(金)の日程で開催されました。本年度発表パート数は113パート、ゼミ発表会5日間の聴講者数は延べ14,086人となり、発表パート・聴講者ともに『大会史上最多』となりました。これも発表パートを含め、関係者の皆様のご協力があったからこそだと思っています。この場をお借りしてゼミナール連合本部一同心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

史上最多の発表パート数ということで私たちは様々な困難を想像し何回にも渡るリハーサルを行いました。特に初めてゼミ発表会の運営に携わる2年生はそれでもなお、不安と緊張の中でゼミ発表会を迎えました。しかし、初めは緊張の顔つきであった役員は次第に笑顔で対応するようになり、委員長としてかけがえのない喜びを感じました。

ゼミ発表会はあくまで授業の一環である以前に発表中は発表者が主役となります。開催に至るまで「ゼミナール連合委員会議」「発表枠抽選会」「補助員制度」と発表パートには様々なご協



力をいただきました。しかし、一部の学生によって発表パートに不快な思いはしてもらいたくありません。来年度に関しましてはマナーの向上を目指すと共に高千穂大学のゼミ発表会が外部でも誇れるようなものになるよう私たちは考えていきたいと思っています。

今後どうかゼミナール連合本部をよろしくお願い致します。



プレゼンコンテスト受賞者発表



松崎ゼミ 愛ペット班

「わんちゃんねこちゃんそこのきみ! 喜ばれることしてみない!？」

今回、初めてのプレゼンコンテストという企画で、金賞を頂き、本当にありがとうございます。このプレゼンコンテストでは、今まで「ただ発表していただく」のゼミ発表会に「競争意識」を加えたことで、全体的にいつもよりレベルの高いゼミ発表会になったのではないかと思います。ゼミ連の皆さん、とても良い企画をありがとうございました。来年はもっともっと出場ゼミが増えて、切磋琢磨したゼミ発表会になることを期待しています。

大橋 茜 経営学部3年
長岡商業高等学校出身



小林第一ゼミ パーソナル班

「個人商店のビジネスモデルとは？」

「個人商店の生き残り戦略」というテーマで研究を進めてきました。発表を終えて、自分達でも納得のいく発表ができました。この発表で皆と協力していくことや切磋琢磨し合えるなど、たくさんのことを学びました。ありがとうございました。

金築 正樹 経営学部2年
東京学館浦安校高等学校出身



小林第一ゼミ グローバル班

「アウトレット業界の販売戦略」

高千穂大学初の試みとなったプレゼンコンテスト大会。小林先生の指導のもと、ゼミ生皆夜遅くまで練習を行ってきた成果をプレゼンコンテストと言う場で残せたことを嬉しく思います。貴重な経験を糧にこれからの大学生活も精進して行きたいと思います。

堀 斗志貴 経営学部2年
大江戸高等学校出身



プレゼンコンテストを終えて

本年度、ゼミ発表会の新しい試みとして「プレゼンコンテスト」を開催いたしました。プレゼンコンテストとは、任意で参加パートを募り、プレゼン力で具体的な評価を示すことによって、今の自分達の実力を知るための企画です。今回は商学部13パート、経営学部9パート、人間科学部6パート、合計28パートが参加しました。

年々参加パートは増加していますが、比例して各パートのプレゼン力が上がっているとは言えないのが現状でした。せっかく発表するのだから良い発表をして終わってほしいため、なにか良いアイデアがないかと考えた先輩たちが、コンテストの様な順位をつけるものを開催すれば参加パート同士が切磋琢磨し、発表の質が向上するのでは?と、企画したのが始まりで、3年越しでようやく今年度実現できました。

今年度実施し、参加者から「コンテストに参加し、発表に対する向上心が上がった」「モチベーションが上がった」などの意見も寄せられ、大変多くの方に満足して頂くことができました。私たちゼミ連もこの企画が実現できて本当に良かったです。

この企画を立案していただいた先輩方、実現までにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

(ゼミナール連合本部 委員長 嶋田 友香)



平成25年度入試関連状況報告

平成25年度入試は8月の第1回AO入試に始まり、11月の指定校制推薦入試、公募制推薦入試を経て、いよいよ一般入試、センター試験利用入試のシーズンとなります。

本学のAO入試の特徴は、受験生が高校時代に取り組んだ様々な活動に対する姿勢を入学後も継続し、新たな分野への挑戦や上位資格取得、クラブ活動等に積極的に取り組もうとする目的や意欲を、調査書、課題作成とていねいな面接により総合評価するものです。8月から実施する理由は、進路を早く決定することにより、各人の目標達成に向けて早くから準備を始めることができるからです。

推薦系入試については、指定校制、公募制以外にも、本学と古くから様々な交流を続けている高校を対象とした提携・協力校入試、全国商業高等学校長協会特別推薦入試などを通じて、本学の教育理念に賛同し学びたいと考える受験生を募集しています。

これから始まる一般入試は、本学独自の「英語・国語入試」と「ベスト2教科入試」、大学入試センター試験の結果を利用する「センター方式」の3種類があります。「英語・国語入試」

は英語と国語の2科目の合計点で判定します。「ベスト2教科入試」は英語、国語、選択科目（日本史、世界史、政治・経済、現代社会、数学）の3科目から2科目以上を受験し、高得点の2科目の合計点で判定します。いずれの入試も、自分の得意科目で勝負することができます。

「センター方式」は、外国語、国語、選択科目から高得点の2教科または3教科の合計点で判定する方式と、大学入試センター試験の平均点を参考に、本学が定める3科目合計の基準点を上回れば出願者全員を合格とする「合格点公表型」があります。いずれのセンター方式も個別試験はありません。

一方、本学大学院については、9月に修士課程I期入試を実施し、2月には修士課程II期入試と、博士後期課程入試が実施されます。特に、学内・外を問わず税理士資格取得希望の受験生が多いのが特徴です。

入試課では、学部、大学院の願書を無料で配布しています。在学生で後輩や知人が受験を検討しているという場合は、入試課にご連絡いただければ関係資料を無料で送付いたします。

一般入試＜英語・国語入試＞

日程	出願期間	入試日	結果発表日
前期	1月9日（水）～1月19日（土）	1月25日（金）	2月2日（土）
後期	1月25日（金）～2月20日（水）	2月24日（日）	2月28日（木）

一般入試＜ベスト2教科入試＞

日程	出願期間	入試日	結果発表日
前期	1月9日（水）～1月23日（水）	1月31日（木）	2月7日（木）
後期	2月12日（火）～2月28日（木）	3月6日（水）	3月11日（月）

一般入試＜センター方式＞

日程	出願期間	結果発表日
I 期	1月4日（金）～1月18日（金） ※窓口は1月9日（水）から受付	2月7日（木）
II 期	1月25日（金）～2月16日（土）	2月27日（水）
合格点公表型		
III期	2月12日（火）～2月27日（水）	3月11日（月）
IV期	3月1日（金）～3月13日（水）	3月23日（土）

平成24年度オープンキャンパスレポート

今や大学入試の情報源として欠かせないのが「オープンキャンパス」です。6月頃の電車の中は、オープンキャンパスの広告で溢れています。今年は6月から12月まで合計7回実施しました。本学のオープンキャンパスの特徴は、学外の業者が全く関係しない手作り感満載の個別対応重視が特徴です。そんな今年のオープンキャンパスの1日をレポートします。

オープンキャンパス意外にも、ゼミ I 担当教員・事務職員

が600校を超える高校で、在学生の状況報告や大学の紹介をしました。また、高校内の進路相談会、出張講義や面接指導など100校近い学校で高校生とお会いしました。10月以降は現1、2年生の進路指導の一環で本学の見学会や高校生の保護者が大学を見学に来られました。

オープンキャンパスの参加者からは、「静かできれいなキャンパスですね」「ていねいな個別対応が印象的でした」という声が毎回寄せられています。



まずは受付で、資料の確認!「今日のスケジュールは?」



【キャンパスツアー】で在学生と学内探検!



【大学説明】は本学の特徴と学部構成と学びの概要が中心。



【個別相談】で就職状況をチェック。昨年は90.5%!



実際に【模擬授業】に参加。「難しいけど、興味深い内容!」



最後に、【入試対策講座】で入試の傾向と対策を確認。



就職活動体験記

“?”から“!”へ

12月1日、この日を境に就活生になった私は、訳もわからず就活サイトを見ていた。わからないことだらけ。業種や職種が多すぎて、企業名は聞いたことのないものばかり。自分がやりたいこともわからない。まさしく「?」からのスタートだった。

これではどうすることもできない。ならば、将来設計も踏まえてどこを受けるか決めようと考えた。その結果、都内で働いて地方転勤の心配が無い、信用金庫を受けることにした。そう決めてからは、他の業種や企業は選考に参加するのをやめた。賛否両論ある行動ではある。様々な企業を受けることによって、自分のやりたいことを見つけてそれによって就職活動は上手くいく、という人がほとんどだということもわかっていった。しかし、そのために企業研究をしなければならず、エントリーシートや履歴書を書く時間も全て確保しなければならない。自分にはそれだけの時間と集中力はない。ならば思い切って信用金庫だけを受けようと思ったのである。それでも、最初は信用金庫で何をやりたいのかわからなかった。当然、選考には何度も落ち、受けられる金庫の数も少なくなっていた。しかし、それに反比例するように自信はついてきた。何度も何度も似たようなエントリーシートや履歴書を書いているうちに、自分の本当にやりたいことが自

西武信用金庫内定
商学部 4年
赤坂高等学校出身

阿久津 道拡



信を持っていえるようになったからである。「私は貴庫の一員としてこういうことをやりたいです。」から「私は貴庫の一員としてこういうことをやります!」と強調していえるようになった。それからは次々と面接を通過するようになり、私のやりたいことが一番実現できそうな信用金庫に内定を頂くことが出来た。

やりたいことも何もわからない「?」だらけだった最初の頃に比べて、最後はこういうことがやりたい「!」と自信をもてるようになっていった。一つひとつのわからないという不安を取り除き、一つひとつのことに自信をもつ。これが私の上手くいく就職活動だと考える。

最後に、就職活動では、大勢の方に力をお借りしました。ゼミで行う就職活動の対策だけでなく、様々な相談にのって頂いた西山先生には感謝という言葉で表せないほど感謝しています。また、エントリーシートや履歴書の添削を急をお願いしても応じて頂いた、就職支援課の工藤さんにも本当に感謝しています。その他にも、家族や友人には大変お世話になりました。悩みを共有できる素晴らしいゼミの仲間に出えたことは、身近で一番心強かったです。

ありがとうございました。

就職活動体験記

“本当の自分を見つけた”

10月下旬「今後の会社作りのために、女性社員の先駆者として活躍してください」との連絡を頂きました。長期に亘り就職活動を続けたのちにでた結果のため、その時の喜び・感動は今でも忘れることができません。

私が就職活動を始めたのは、インターンシップに参加した3年生の8月です。短期間ですが、初めての環境で社会人体験をしたことは、新しい世界に飛び込む勇気となりました。

就職活動が本格的にスタートした3年生の12月からは、積極的に行動することを心掛け、就職する上での軸に、「次に繋がる仕事」ができる企業に決めました。

しかし、業界・職種が絞れずにいたため、あらゆる企業の説明会に参加し、気になる会社をとりあえず受けていました。そのため、志望動機がなかなか書けず、一次選考で落ちることが続き、悩み・苦しんでいました。

そんな中3月頃、部品メーカーの製造職を募集している企業に出会いました。仕事内容をお聞きし、実際に工場見学をしたことで、「作る仕事をしたい」と強く思うようになりました。それ以降、製造・技術系職種を受験しようと決め、機械・部品業界や食品製造業界に絞り活動をしてきました。

しかし、このような職種は理系出身者向けが多く、文系出身者の

株式会社フジメカニク内定
人間科学部 4年
学芸館高等学校出身

小高 小絵



私は受験できる会社探しが大変でした。また、これまで男性が多く活躍されていた仕事だったため再び苦戦を強いられました。

そこで私は状況を改善したく、夏休みには志望業界の1つである、農業法人のインターンシップに参加しました。体験で2社、選考として1社の計3社行い、長いところでは2週間、泊りでの生活をしながら農業をすると共に改めて進路を考えることができました。

そして4年生の10月からは、気持ちを新たに合同面接会やハローワークを中心に、多くの企業を受験することに努めました。内定先の企業とも、この頃開催された面接会で出会いました。前半よりも学部不問の募集を掛けるところが増え、やりたい仕事に応募できるチャンスでしたし、自分の中で迷いが減ったためか、選考も通りやすくなりました。それが自信となり、良い結果に繋がったのだと思っています。

私の就職活動を振り返ると、ずっと悩んでふらふらしていました。それでも、途中で諦めずに続けたことで、目指していた仕事での内定を頂くことができました。これも周囲の方々が温かく見守り、時に叱咤激励して支えてくださったからこそその結果であり、多くのアドバイスを下さった皆様には大変感謝しております。本当にありがとうございました。

これからもこの経験をバネにさらに成長して、社会に貢献できる人材になれるよう仕事に努めていきたいと思っています。

就職活動情報 平成25年3月卒業者対象求人情報 今なお新着求人が届いています「最後まで諦めず前進あるのみ」

昨年度より導入を開始した、学内就職支援Webシステム“求人NAVI”には今なお求人が届いております。また、就職支援課内設置の掲示板では注目求人票や会社説明会情報の掲示のほか、相談も随時対応しております。引き続き、採用意欲のある企業を中心に学内にて個別企業説明会を実施する予定です。

【学内求人数】

- ・4月からの累計6,217件
- ・11月受付分648件
- ・12月受付分（12/1～12/15）256件

就職活動情報 3年生の就職活動がスタートしました 学内“求人NAVI”公開求人2,008件（12/15現在）

年が明け、いよいよ平成26年春卒業予定者の就職活動が本格化する時期となりました。経済状況の悪化による採用環境は引き続き厳しい状況にあり、新卒有効求人倍率も低水準となっております。しかし、臆する必要はまったくなく、いくら厳しい状況でも学内求人件数は十分に

あり、必要な人材を確保できずに悩んでいる企業もあります。これまでに培ってきたみなさんの力を遺憾なく発揮し、自立した社会人への道を切り拓いてください。まさに時節到来です。何かあれば私たち就職委員会・就職支援課がいつでも相談に応じます。

平成26年4月採用向け 高千穂大学学内合同企業説明会

予 約 不 要
入退場自由
履歴書不要

開催日 1月15日（火）
2月8日（金）

集合場所 セントラルスクエア2階
タカチホホール（12:40集合）
実施時間 13:00～16:10

参加予定企業 （順不同・12月10日現在）

※約20社の参加企業が決定しました。都合により変更になる場合もありますので、参加決定企業は事前に“学内掲示”“求人NAVI”にてご確認ください。

第2回学内合同企業説明会 1月15日（火）開催

- 東日本旅客鉄道(株)
- 神奈川トヨタ(株)
- 東京総合警備保障(株)
- (株)近宣
- (株)エトワール海渡
- リゾートトラスト(株)
- (株)トゥモロランド
- 鈴茂器工(株)
- 東京信用金庫
- 東京シティ信用金庫
- (株)江東微生物研究所
- 橋本産業(株)
- (株)東計電算
- 戸田建設(株)
- メリーチョコレートカンパニー(株)
- (株)河内屋
- ワタベウェディング(株)
- フジモトホールディングス(株)
- (株)いなげや
- ボラス(株)

第3回学内合同企業説明会 2月8日（金）開催

- (株)千修
- (株)NaITO
- 巣鴨信用金庫
- 多摩信用金庫
- (株)サムソン
- (株)中村自工
- (株)セブン&アイフードシステムズ
- (株)シャノール
- (株)文化堂
- (株)マルゼン
- ネットトヨタ神奈川(株)
- 楠原輸送(株)
- 日邦薬品工業(株)
- (株)東京鋳業
- (株)サンフォニックス
- ヒロセ電子システム(株)
- (株)東京めいらく
- ガーデンペーカリー(株)
- 共同印刷(株)
- JA全農たまご(株)



我が教育を振り返る

退職予定教授

人間科学部教授

八木澤 秀記

在職期間：42年

担当科目：数学 A/B、

環境科学 A/B、算数、

専門ゼミ



束の間の教員生活との実感しか湧かず、あえて言葉で表現すれば“教員矢の如し”だろうか。退任に当たって何かを書こうにもろくな事柄しか浮かばない。勝手に手を動かせば割当られた文字数は消化できるだろうからそうする。

教育とは何かなんて考えたことは殆どない。そのような命題が未だに学問上のテーマであり、マスコミを賑わす話題であること自体が答えのない証拠でもあろうか。小学1年生から大学院5年間までの22年間を振り返ってみて、学校から学んだと言えるモノは一つも思い浮かばないから無かったのだろう。学ばなかった責任を学校に押し付けている分けでは勿論ない。原因は自身にあることは承知していて、困った事はそれが困った事であるとは思っていない事にある。簡単に言えば私の性格（頭？）は他人の言葉を理解できない（しようとしな）DNA から形成されているようだ。小学校1年生の通信簿のコメント欄は今でも覚えている「せんせいのはなしをききましょうね。せんせいをばかにするのはやめましょうね」。教師がうるさいから無理矢理に書いたノートも読み返す事はなかったから、中学以降ノートを持った事がない。筆記用具も持たずに教室には入って来る学生達を見ても、自分の学生時代を重ね合わせて懐かしさすら覚える。

小学4年の時だったと思うが、2桁同士の掛け算の問題が30問の試験があった。馬鹿正直に計算するのは面白くないから1問当たり10秒程度の暗算を実行して鉛筆を置いたら半分位が誤りだった。御世辞にも教員適格と言えない人物が教員に、それも数学担当とは絵に描いた不適材不適所かもしれないが、世の中には色々な人間がいるから面白いのだ。例えば、推理作家アガーサ・クリスティ、俳優トム・クルーズ、発明王トーマス・エジソンの共通項は意外にも失読症（alexia）にある。字を識別できないのに作家活動ができるとは想像を超える摩訶不思議な世界だし、セリフを耳だけで覚える能力には尊敬の念すら持つ。前人未踏の発明王には文字は重要ではないだろう。何かの能力が欠けるとは、他人にはない特殊能力と入れ替わることなら面白いし、各分野の歴史はその種の“欠陥”人種で作られて来たことは紛れもない事実であろう。

問題教師はそれらしく教壇に立つしかない。就任した頃も高千穂は到底受け入れ難い致命的無策経営が続けていたが、のどかな一面があって教育は先生に一任されていた（と思い込んでいた）。少なくとも休講は即補講と云う馬鹿げたことはなかった。勉強しない学生にもどこか憎めない面もあって（今でも言えるが）、教職員が何とか助けていた。ある2月の寒い夜、最終電車で帰ると家の前に貧相な男が薄汚れたジャージ姿で寒さに震えて立っていた。消え入るような小さな震える声で彼が言うには、単位が欲しいので昼からここで私を待っていると。それも事務職員に相談に行ったら、そうすれば先生は助けてくれると指南されたい。外は寒いから中に入れ、家内に温かい食事を作らせて食べさせたが、震えて箸も持てない。単位欲しさの演技かもしれないが、演技力を評価して単位を与えた。ゼミは今では考えられない風景だった。丹沢湖は70年代までは豊かな水が流れる帚沢集落だったが、ダム計画で立ち退かされて殆どが空き家になっていた。週末にゼミ生とそこでゼミを開講し、立派な古民家の竈で炊事し、キャンプファイアーの後はその所で寝た。何度かそのような事をしたから時間数で計算すれば1年分は楽に超えた。彼等とは未だに毎年数回は集まったり旅行したりするが、その時は決まってゼミの思い出話に花が咲く。教育とは何か？



今、学生に読んでほしい本！



新井 健之准教授(商学部)より紹介

『脳を鍛えるには運動しかない!』

最新科学でわかった脳細胞の増やし方

レイテイ、ジョンJ、ヘイガーマン、エリック 著、野中香方子 訳

〔日本放送出版協会・2,205円〕(2009年 初版)

本書は、人間が生きていくために運動が重要であることを、脳科学の視点からわかりやすく解説しています。運動すると気分がスッキリすることは誰でも知っています。けれどもなぜそうなるのかは最近分かってきました。今まで増えることはなく死んでいくだけと考えられていた脳細胞が、運動により増えることが分かってきました。運動するとなぜ学習能力が上がるのか、そして、ストレス、不安、うつ、ADHD、依存症、ホルモン変化、加齢といった人間の生活・人生全般に、どの様に影響を及ぼすのか、運動がいかに脳を鍛え、頭の働きを取り戻し、気持ちを上げるかを解き明かしています。全体ではなく拾い読みでも良いので、幸せな人生を送りたい学生には是非読んでほしい一冊です。



(写真:紀伊國屋書店BookWeb)



(写真:紀伊國屋書店BookWeb)

中元 崇智准教授(商学部)より紹介

『関東大震災 -消防・医療・ボランティアから検証する-』

鈴木 淳 著

〔ちくま新書・720円〕(2004年 初版)

阪神淡路大震災、新潟中越地震、そして、2011年3月11日の東日本大震災・原発事故は私たち日本人に改めて地震への備え・災害後の救助活動についての教訓を数多く残した。実は、約90年前の関東大震災も、10万人を超える死者の大半が焼死者であり、震災に対する行政の対応に数多くの課題が残った震災であった。

本書では震災に対する行政の対応、震災時の防火体制や被災者に対する医療活動などの問題点を指摘する。その上で、公的機関や地域住民、現在のボランティアと呼ばれる人々が災害の拡大防止や被災者の救援活動に従事した全体像を捉えたものである。こうした歴史的教訓は、現在を生きる私たちにも有益であり、一読する価値があるといえよう。



図書館員が選んだこの2冊

『もう一つの地球が見つかる日—系外惑星探査の最前線』

原書名: Strange New Worlds: The Search for Alien Planets and Life beyond Our Solar System (Jayawardhana, Ray)

ジャヤワルダナ, レイ 著 (Jayawardhana, Ray) 阪本 芳久 訳

〔草思社・2,310円(税込)〕(2012年8月31日 出版) ISBN: 9784794219213

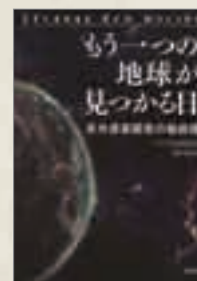
太陽系以外の惑星、つまり地球から遠く離れた恒星を回る惑星を「系外惑星」という。

この系外惑星の探査は現在、科学界でも最も熱い領域となっている。

1990年代以降、数々のブレイクスルーにより、遠い星を周回する惑星が数百個発見され、さらにはその惑星の大きさや軌道、組成までもが次々と明らかになっているのだ。

地球外生命の証拠をとらえる日もそう遠くないだろう…。

生命は地球にしか存在しないのか、地球のような惑星は他にはないのかという、人類はじまって以来の疑問に、今、答えが出ようとしている。



『満鉄特急「あじあ」の誕生—開発前夜から終焉までの全貌』

天野 博之 著

〔原書房・2,625円(税込)〕(2012年7月19日 出版) ISBN: 9784562048472

伝説の名機関車の真実の姿に迫る。

特急「あじあ」は、いかにして生まれたか—パシナ設計主任・吉野信太郎をはじめ、これまでほとんど語られなかった若手技術者たちの開発秘話を満載。

昭和9年から18年…満洲の広野を駆け抜け、8年4か月で消え去った幻の超特急あじあ号とは何だったのか。当時世界一流の列車をつくりあげた技術者達の活躍、巨大企業満鉄の真の姿他、「あじあ」と満鉄の知られざる歴史秘話。

(引用:紀伊國屋書店BookWeb)



海外留学・研修レポート

IBCS 研修生報告

2012年度IBCS研修生リーダー 矢部 博之 (経営学部3年 杉並高等学校出身)

IBCS (国際ビジネスコミュニケーションセミナー) とは、アメリカのオレゴン大学における 3 か月間の米国研修を含む 1 年間のプログラムで、春学期は高千穂大学で英語力、プレゼンテーション力を磨き、秋学期はオレゴン大学における研修、そして帰国後は高千穂大学で英語力、プレゼンテーション力のまとめの発表を行う授業です。

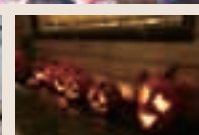
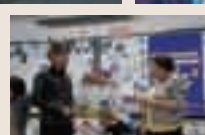
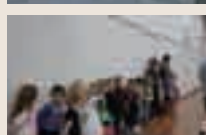
私がIBCSに参加したきっかけは、海外への憧れと研修生報告会を見てこのプログラムに興味を持ったためです。英会話は日本にいても喋れるようになりますが、英語の環境に身を置くことで自身のモチベーションや向上心が変わってくると思いますので、その環境下で日本では体験できないものを感じるために参加しました。

オレゴン大学における授業は、早い日で9:00、お昼から始まる日もあり大体16:00頃には授業が終わります。1コマ50分の授業です。高千穂大学の長い授業に慣れているせいか授業の終わりがとても早く感じました。授業は大きく2つに分かれていて、オールラウンド (会話、発音) とRWG (リーディング、ライティング、グラマー) です。事前に受けるテストで2つのクラスレベルが決まり、自分の英語力に見合った授業を受けることが出来ました。

課外活動では幼稚園へ行き園児たちとコミュニケーションを取ったり、YAMASAの醤油工場を訪問したりしました。10月にはハロウィンがあり、大学で行われるハロウィンドダンスパーティーに参加しました。ハロウィンはとても活気が溢れていて、パーティーにはたくさんの生徒が仮装をして来て、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。勉強と遊び、オンとオフの切り替えがとてもいいバランスで出来ているように思います。

IBCSプログラムに参加して私が一番印象深かったのが人との関わり方です。他人同士でも目が合うだけで軽く言葉を交わします。日本で今までにそのような経験はありませんでした。オレゴン大学には世界各国から生徒が来ていて、異文化を体験できるいい環境です。この研修では、英語のスキルだけではなく、新しい感情や考え方なども得

ることが出来ると思いました。ただ、1タームというとても限られた時間の中で英語の上達や海外のビジネス事情を学び、それに成果を見出すのはとても大変です。異国の環境に触れ、自分に適応させて行くだけで精一杯です。それでも、この経験を手に入れることが出来たことにとても満足しています。



海外留学生報告

2012年度フィッシャー大学海外留学生 富沢 正男 (経営学部3年 高島高等学校出身)

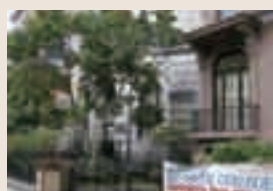
海外留学とは高千穂大学が協定を結んでいる米国の大学に 1 年間留学する制度です。

私はアメリカのボストンにあるフィッシャー大学にて1年間の留学生生活を送っています。私は昨年度の2ヶ月半、高千穂大学のIBCS研修に参加しました。その時の研修先であるアメリカのオレゴン州での生活は、初めての海外生活ということもあり、様々な点で日本との違いに驚かされる日々でした。そして、自分の語学力のなさ、特にListening、Speakingの難しさを痛感しました。また海外の人と実際にコミュニケーションしていく中でもっと多くの友達を作りたい、様々な話題を友達と話したいという自分にとっての英語の必要性を感じました。これらの思いからIBCS終了後、大学入学時から考えていた海外留学への参加を決意しました。

2012年の8月からボストンに滞在して、この間を振り返ると本当に様々な事を経験したと実感します。1つは、多くの留学している学生が感じるそれぞれの国の文化の違いです。私が現在通う語学学校では、韓国や中国、サウジアラビア等様々な国の生徒がいます。同じクラスで共に授業を受けてきたのでとても仲良くなり、様々な話をしました。そこには、家族やお金、時間等に対する考え方の違いやそれぞれの国が持つそれぞれの国への固定観念、それは私にとってとても興味深い

ものでした。2つ目に語学力の向上です。自分の思いをしっかりと伝えること、人の話を理解し応えること、何より友達と会話を楽しむこと等まだまだな部分はたくさんありますが8月に比べると向上したという実感があります。

今後の目標としては、フィッシャー大学で経営学関係の科目を履修してより専門的な知識を身につけると共に、より一層語学力向上を目指していきたいと思っています。



学友会コーナー

高千穂大学での経験と今後について

オリックス・バファローズ

戸田 亮

(高千穂大学商学部・平成22年度卒業生)



高校卒業後大学でも好きな野球を続けたいと考えていた私は、高校3年生の夏に高千穂大学硬式野球部のオープンキャンパスの練習に参加をさせて頂きました。そこで初めてお逢いした嶋田信敏監督代行に「投手の資質が有りそうだからうちでピッチャーをやってみないか?」とお声がけを頂きました。

今振り返ってみますと、その時の一言は、それまでずっと野手の控えで高校最後の公式戦も1回戦1打席の三振で終わった私の野球歴から、その後の私の人生をガラリと大きく変える一言となりました。



高千穂大学硬式野球部に入りますと、すぐに監督代行に一からピッチングの指導を受ける事となりました。

当時、高千穂大学硬式野球部は2部リーグ在籍でしたので、1部リーグのように注目されるような事は有りませんでした。私にとって幸いし、1年生の時から登板のチャンスを得る事が出来、2年生からはエースとして投げさせて頂けるようになりました。

とにかく期待に応えられるように、日々がむしゃらに練習に打ち込み、その後1部にも上がり、強打者相手に多くの経験を重ねる事も出来た事が、最高の環境であったのかも知れません。

ただし、監督代行からは「学生の本分である勉学を疎かにしてはならない、しっかり勉強し多くの経験を積む事が野球にも役立つ」と教えられていましたので、授業もきちんと出ましたし、ゼミ発表にもしっかり参加し無事に卒業証書も頂きました。

先生方も硬式野球部の活動にご理解の有る方が多く、大会前になると大勢の方から「頑張れ!」「応援しているぞ!」などとお声がけを頂きとても励まされましたが、同時に大きな責任をも感じました。



高千穂大学での4年間で、私が経験したたくさんの事柄すべてが、今の私の基礎を作ってくれたものと、多くの方々に心から感謝しております。

私はこれからプロ野球の世界に進みますが、高千穂大学で学んだ事を誇りに思い、高千穂大学・高千穂大学硬式野球部の卒業生の代表として恥ずかしくない野球人生を歩んで行きたいと思っております。

最後に高千穂大学後輩学生の皆様へ

ゼミでも授業でも部活動でも、何か「コレだ!」と思った事・ものに出会ったとことん突き詰めてみて下さい。

私の場合それは「野球」でしたが、小中高と活躍出来なかった私でも、とことん突き詰め努力した結果、今こうしてプロ野球選手として、スタートが切れるまでになりました。

恩師、嶋田信敏監督代行の好きな言葉に「思えば叶う」と言う言葉が有りますが、私の高千穂大学で学んだ4年間は、まさにこの言葉そのものであったと思っています。

硬式野球部 東京新大学野球連盟 2部リーグ優勝&1部昇格

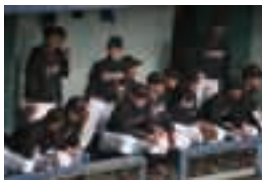
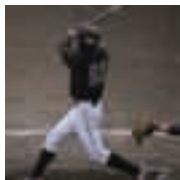
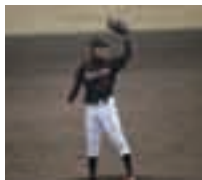
主将 土谷 尚之 (人間科学部4年・下仁田高等学校出身)

今季の入替戦で1部に昇格できた裏には、皆さま方の温かいご声援があったのだと心から強く感じています。本当にありがとうございました。選手達はその声援に背中を押され、自分たちの持っている以上の力を発揮し、期待に応えることができたのだと思います。

人は大切な人や好きな人の為なら、見たこともないような力を発揮できるのだと、この入替戦で証明することができたと思います。遠くから応援に来てくれ、今まで育ててきてくれた家族。野球の技術はもちろん、人間としても大きく成長させてくれた監督。選手を諦め自分たち選手のために練習・試合を支えてくれた学生コーチ。選手達の為、チームのことを何から何までやってくれたマネージャー。できれば全員試合に出たいにも関わらず精一杯スタンドで応援してくれた仲間。一人ひとり思う人は違っても、誰かのためにという気持ちは違わないと思います。

自分は、13年間野球を続けてきて、こんなに興奮した試合はありませんでした。今までで一番の勝つ喜びと、初めて野球をやってきて良かったと思える気持ちを味わうことのできた、一生忘れられない試合になりました。自分にとって野球は本当に色々な経験をさせてくれ、自分の人生に欠かせない存在となっています。

幸いなことに卒業後、社会人でも大好きな野球が続けられる機会を与えていただきました。今後も日々感謝の気持ちをもって1年でも1日でも多く野球ができるように頑張ります。



和弓部女子部 東京都学生弓道連盟 リーグ戦4部Aブロック優勝&3部昇格

和弓部女子部リーダー 兼城 和香 (商学部3年・第一商業高等学校出身)

今季の和弓の女子部は、とても成長することができた年だったと思います。昨季、初めて4部のレベルを経験しました。メンバーの実力も、練習量も十分だったので、3部に昇格できる自信を持って臨みました。しかし結果、4校中3位という結果で終わってしまいました。さらに、3部に昇格した大学は、私たちが1勝した大学だったので、凄く悔しかったです。つかんだチャンスを逃してしまいました。その経験や悔しさを持って、次こそはと練習をし、格上のライバル校と練習試合を組み、経験を積んで、負けも味わいリーグ戦に臨みました。昨季があったからこそ今季、全員が団結することができました。全日本学生弓道選手権大会も予選を突破することができましたし、リーグ戦も苦しい戦いを何度も乗り越えることができました。ほとんど経験がない、三つ巴戦も1位になり、優勝することができました。優勝できた瞬間は、今までやってきた努力が報われたと、本当に嬉しかったです。何よりも、一番お世話になった今年度卒業の4年生の先輩方を気持ちよく送り出せることが出来ると思います。4年生の忙しい中、尽力して下さり、ありがとうございました。先輩方のおかげで優勝することができました。今年は、成功で終わることができて、本当に良かったと思います。来季はさらに上の3部優勝と2部昇格が目標です!ぜひ応援よろしくお願いします!



第47回 高千穂祭

10月19日から10月22日の日程で第47回高千穂祭が開催されました。今回は例年に比べ多くの来場者の皆様にお越しいただき大変大きな盛り上がりとなりました。各イベントでも参加した学生、観客のみなさんともに大いに楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

高千穂祭を終えて

第47回高千穂祭を無事に終えられた事を大変嬉しく思います。第46回ではイベントの運営や当日の指示も上手く周り大成功したため「この流れを変えたくない」という思いと共に、春に迎えた60名近くの新入生を引っ張っていけるだろうかというプレッシャーに負けそうになりました。しかし2、3年生それぞれが自分の役割を理解し、それを全うしてくれ、1年生は指示を待つだけでなく自らやるべきことを考えて行動してくれました。そのため、第47回のテーマであった「STEP」の通りに、全員でより盛況な高千穂祭を築くことができ、1人1人が成長してくれました。そして、キャンパスに入った瞬間に肌で感じた雰囲気良さが、より盛況な高千穂祭を上げることができた証拠だと思っています。特に学内生の集客を課題としていましたが、各本部や団体の積極的な協力もあったため、模

第47回 高千穂祭実行委員会
委員長

東京高等学校出身

安達 明則

擬店出店数の増加や各イベントの学内生の集客に繋がったと思います。

何より嬉しかったことは高千穂祭終了後、来場者の方に「とても楽しかったです。ありがとうございました。」と言って頂いたことです。沢山いた一年生の実行委員にも「入って良かったです」と充実した様子を話してもらえました。委員長としてこれ以上嬉しい事はありません。48回では更なる成長をとげた後輩達の高千穂祭を楽しみにしています。



第16代 学友会会長あいさつ



大西 洋平

商学部 4 年
第四商業高等学校出身

私が学友会会長になってから早一年が過ぎ、昨年の10月末に任期を満了しました。

会長として過ごした一年は多くの経験をする事ができ、自分を少なからず成長させてくれた一年だったと思います。

会長になって最初の仕事は秋学期学友会総会の準備でした。前年に先輩方が準備しているのを見ていたとはいえ、どんな手順で準備すればいいのかわからず、とても大変な思いをしたことを覚えています。次に12月末に行われる研修会の準備です。以前高千穂祭本部で委員長を務め前年度も研修会に参加していたこともあり、資料の作成や会の進行方法の確認などには困らなかったものの、前年度の反省や新企

画の立案などやることは山ほどでした。会長の職務と同じ時期に就職活動が本格的に始まり、この1年間は私の大学生活で最も忙しかった時期の一つと言えるでしょう。その他にも多くの行事や出来事がありましたが、乗り越えられたのは多くの人々の助けがあったからです。第16代学友会のテーマは「つながり」でした。会長である私が一番、学生同士や各本部、各団体の「つながり」を一番実感できることができ、学友会会長を務めて本当に良かったと言えます。

最後になりますが、この場をお借りし、これまで支えてくださった皆さんに感謝の気持ちを伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。

第17代 学友会会長あいさつ



綿貫 良成

商学部 3 年
高田商業高等学校出身

この度、第17代学友会会長を務めさせていただくことになりました、商学部3年の綿貫良成と申します。

私にはこの学友会会長という役職はとても荷が重く感じているのですが、任命されたからには精一杯努力していきたいと思っています。

10月に行われた学友会総会でお話ししたことでありますが、第17代学友会はず、学友会役員同士の信頼関係を強めたいと考えています。そして学友会活動を円滑に行い一般学生にも学友会を認知してもらい各行事の参加率を増やしたいと考えております。

ここ数年、学生の競技大会・体育祭・六月祭・高千穂祭などの学友会行事への参加率が低迷してきています。そこで私達学友会役員は多くの一般学生にもっ

と学校行事を楽しんでもらいたいという思いで日々活動を行っています。これからも新しい企画を積極的に行うことや、既存の各行事の改善、発展を目指していきます。また、学友会の認知を上げるためには学友会だけでなく、体育会本部・学術文化団体連合会本部・高千穂祭本部・ゼミナール連合本部と協力し学友会活動の周知徹底を行いたいと考えています。

最後となりますが、諸先輩方が築き上げてきた伝統を尊重しこれまで以上に発展させるべく、他の役員と力を合わせて活動してまいります。先生方、事務局の皆様、父母の会の皆様方、何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



学友会副会長 兼
会計局長

小林 京介

経営学部 3 年
杉並高等学校出身

副会長として会長をサポートし、学友会員の皆様により良い学生生活を送れるように努めています。

また、会計局長として責任をもって仕事に取り組み、これまで以上に信頼してもらえらる学友会本部を築いていきたいです。



広報局局長

菊地 彩

人間科学部 3 年
秀明英光高等学校出身

広報局は、新入生を対象とした部活やサークルなどを紹介する冊子「ENJOY」の作成や、学校行事や各団体の活動など報告、告知を学友会新聞で行います。今後はもっと学友会や各団体の活動を知ってもらふことと、学校行事の告知を積極的に行っていきたいと思っています。



書記局局長

安達 明則

経営学部 3 年
東京高等学校出身

書記局では会議の議事録はもちろん、学校付近で奉仕活動をするクリーンアップキャンペーンと高井戸警察署と協力して行っている防犯ボランティアを主に任されています。クリーンアップキャンペーンでは、各本部、ゼミ生、運動部と共に、学生が主体となって掃除する事で少しでも周りの学生がゴミを捨てる事に対して意識を高く持って頂けたらと思います。防犯ボランティアでは学外の方と繋がりを持つ大事な活動であると言えます。昨年度から始まった活動ですが、来年度以降も続いていくようにしっかりと地盤を作りたいと思います。

また、私個人としては元高千穂祭本部の委員長としての経験を踏まえ、書記局の活動にとどまらず、全体を見て他局のサポートをしていけるように励んで参ります。よろしくお願いいたします。



体育会本部
委員長

熱田 知也

商学部 3 年
城山高等学校出身

～盛り上がりのある体育祭に！～ 今年度も6月1日(土)に体育祭が行われます。昨年度参加した人も参加していない人もいますが、今年度は昨年度よりもっと楽しく盛り上がりのある体育祭にしたいと考えていますので、皆様にも是非体育祭に参加して頂きたいと考えております。学内全体で体育祭を盛り上げて行きましょう！



第 48 回
高千穂祭実行委員会
委員長

高石 佳那

商学部 2 年
柏日体高等学校出身

ただいま、企画を中心に10月に行われる高千穂祭に向けて準備をしております。人数も60人を超え大所帯となりましたが、一丸となって頑張っていきたいと思っています。



会計監査局長

長倉 里音

商学部 3 年
深沢高等学校出身

今まで先輩方が作り上げた縦横のつながりを大切にしながら、もっともっとみんなと仲良く頑張ろうと考えています。

ぜひ皆さんに楽しい学生生活を送って欲しいです。



ゼミナール連合本部
委員長

大下 恭平

商学部 2 年
生闘高等専修学校出身

今年度のゼミ発表会は、大成功を納めることができました。このように成功を遂げることができたのも、偏に関係各所の方々のご助力があったからです。厚く御礼申し上げます。来年度も、今年度の反省を活かし、よりよい発表会にできるよう、ゼミナール連合本部一同全力で務めて行きますので関係各所の方々、ご支援の程よろしくお願い致します。



企画局局長

星野 貴広

経営学部 3 年
目黒学院高等学校出身

私は企画局局長として、学生の皆様が楽しく、思い出に残るような企画を考え、充実した学校生活を送れるよう一生懸命運営していきたいと思っています。

第17代 学友会役員



副会長
嶋田 友香
商学部 3 年
(狭山経済高等学校出身)



企画局員
植木 洋介
経営学部 2 年
(東京農業大学
第一高等学校出身)



企画局員
深谷 優
商学部 3 年
(東村山高等学校出身)



企画局員
塚本 良太
経営学部 2 年
(深川高等学校出身)



企画局員
中村 海良
経営学部 3 年
(田柄高等学校出身)



企画局員
美濃口 悠介
経営学部 2 年
(城山高等学校出身)



会計局員
新井 秀和
商学部 1 年
(宇都宮清陵高等学校出身)



会計局員
五十嵐 健
商学部 2 年
(日本橋高等学校出身)



会計局員
竹内 峻
経営学部 2 年
(ウィザス高等学校出身)



広報局員
上口 拳
人間科学部 3 年
(東京農業大学
第一高等学校出身)



広報局員
大森 雄也
経営学部 2 年
(高島高等学校出身)



広報局員
中川 僚介
人間科学部 3 年
(国見高等学校出身)



広報局員
南口 実希
人間科学部 2 年
(本所高等学校出身)



書記局員
河村 匠吾
経営学部 2 年
(桜町高等学校出身)



書記局員
大原 佑介
人間科学部 2 年
(練馬高等学校出身)



書記局員
奥原 千明
経営学部 2 年
(明星学園高等学校出身)



会計監査局員
金築 正樹
経営学部 2 年
(東京学館浦安高等学校出身)



会計監査局員
小林 千瑛
商学部 3 年
(水戸商業高等学校出身)



会計監査局員
花輪 栞
商学部 3 年
(伊志田高等学校出身)



会計監査局員
中山 貴紀
商学部 3 年
(駒場学園高等学校出身)



会計監査局員
宗野 明日香
商学部 2 年
(藤沢清流高等学校出身)



会計監査局員
和田 淳志
経営学部 2 年
(六本木高等学校出身)

キャンパスニュース

11月16日

上海師範大学との
海外研修協定書調印式が
行われました

本学にて上海師範大学との協定書調印式が行われました。平成 25 年度から海外研修先に上海師範大学
対外漢語学院が新たに加わります。



12月15日

ICEを開催

※ ICE (International Communication Event) とは外国語スピーチ
コンテスト (今回から外国人留学生の日本語スピーチを実施) や本学
の海外研修制度の報告を行うイベントです。
スピーチコンテスト入賞者と海外研修報告者は以下のとおりです。

■ スピーチコンテスト ■

英語スピーチの部

- 1 位: 飯田 成美 (商学部 1 年 井草高等学校出身)
2 位: 中島 啓 (商学部 1 年 須坂高等学校出身)

中国語スピーチの部

- 1 位: 武田 阿佑美 (人間科学部 2 年 府中西高等学校出身)
2 位: 亀川 聖 (経営学部 2 年 菅高等学校出身)

日本語スピーチの部 (外国人留学生対象)

- 1 位: 高 珊 (経営学部 1 年)

■ 海外研修報告発表 ■

IBCS 研修生

- 矢部 博之 (経営学部 3 年 杉並高等学校出身)
山本 亘 (人間科学部 2 年 六郷工科大学出身)

東呉大学研修生

- 永田 絵雅 (商学部 2 年 東京家政学院高等学校出身)
前大外 優基 (経営学部 3 年 八重山高等学校出身)
富沢 宣明 (経営学部 1 年 板橋高等学校出身)

平成24年度同窓会評議員会・忘年懇親会開催報告

同窓会事務局

師走に入った12月1日（土）市ヶ谷にあります「アルカディア市ヶ谷」におきまして平成24年度高千穂学園同窓会評議員会・忘年懇親会を開催。

全国各地から101名の同窓生と学園関係者が集まり親交を深めていただきました。

午前11時からの評議員会は、学園から藤井理事長・成田学長にご出席いただき開催いたしました。

金子同窓会会長の議長のもと3件の議案について審議しました。平成24年度同窓会上半期事業報告並びに中間決算報告について、後藤事務局長より事業・予算とも順調に執行されているとの説明。

次に全国高千穂会会長会議について池田同窓会副会長より説明。全国25支部から43名の支部会長と通信員が出席。高千穂学園の現状に対する共通認識と支援対策、同窓会組織の強化対策について。また、会員相互の親睦と通信員の役割については、全体会や分科会において議論し共通認識を有することができたとの報告。最後に平成25年度事業計画・予算編成の考え方については、金子同窓会会長から費用対効果を勘案のうえ是非を判断し、予算編成を行う方針であることが表明。以上3件について評議員に諮り承認されました。

次に大学支援事業であるクラブ・ゼミナールへの表彰が行われ、今年度は①映画研究会②松崎第一ゼミナール③小林第一ゼミナールの3団体に奨励金5万円をそれぞれ贈呈いたしました。

正午から忘年懇親会にうつり、来賓のご挨拶に引き続

き乾杯の発声を、国光野球部監督にお願いしご挨拶の中で、今期プロ野球オリックス・バファローズに入団した本学を昨年卒業した戸田亮君（JR東日本野球部所属）の紹介と激励を行いました。

同窓生紹介では、地区高千穂会発足の新たな動きの報告がありました。一つは山本三雄彦（大学31回S58年卒）氏から三重県と中京地区高千穂会が解散したことに伴い、東海高千穂会の発足に向けての活動を開始。ちなみに山本氏は名古屋市で公認会計士事務所を開いております。更に、工藤三夫氏（大学20回S47年卒）からは群馬県高千穂会の発足に向けての活動を開始との報告でした。

また、遠方からご参加いただいた岐阜県の中津川市長である青山節児氏（大学24回S51年卒）や大分県から荒木慎二氏（大学32回S59年卒）に挨拶をいただき、最後に井上同窓会副会長の閉会の辞で会を閉じました。

今回は、初めて小学と高商の方の参加がなく一抹の寂しさを感じましたが大学の参加者の増加、近年に無い話題の豊富な懇親会となり盛況裏に終えることが出来ました。



父母の会

郷土企画 鳥取名物“とうふ竹輪”

～近畿・中国・四国ブロック支部～

父母の会近畿・中国・四国ブロック支部長 野畑 洋子

11月21日(水)晴天の中、学内セントラルスクエア食堂にて、近畿・中国・四国ブロック支部が提供する郷土企画が行われました。

今年は鳥取に江戸時代から伝わる“とうふ竹輪”を味わっていただきました。

集まった学生たちは「いただいていいですか?」「ありがとうございます」と気持ちの良い言葉をかけてくれ、準備した600本はあっというまに無くなってしまいました。

鳥取城主池田光仲が、庶民に質素儉約を強いるために、竹輪の原料にたんぱく質源として豆腐を混ぜさせたことによって生まれたと言われる“とうふ竹輪”ですが、学生たちは「美味しかった」「竹輪にしては、柔らかい」「大きくてお腹がもちます」「醤油やマヨネーズがあれば…」等様々な感想を述べてくれました。

普段触れる機会の少ない学生たちは、優しい目と素直な表情で接してくれ、とても好い印象を受けました。

鳥取の名物料理が取り持つ縁で、楽しく温かい時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、ご協力いただきました大学関係者の皆様、ご参加いただきました方々に深く感謝を申し上げます。



※今年度実施した郷土企画のポスター。

編集後記

▼新年あけましておめでとうございます。今年最初となる「クォーターリー高千穂」第40号をお届けします。▼10月の学園祭、11月のゼミ発表会、その他にも多くの行事が学内で開催され、活気づいた秋も終わり、いよいよ冬本番です。▼そして、新しい一年が始まります。今年は明治36年(1903年)に高千穂学園が創立されて以来、110周年を迎える節目の年となります。本号においても、その記念の年の幕開けを祝う座談会の内容を掲載いたしました。これまでの長い歴史を振り返り、これからの新しい歴史を作っていく一人として改めて責任の重みを感じています。▼さて、最終学年の学生の皆さんにとってこれから卒業までの3ヶ月間は先生や友人、これまでの高千穂での生活の中で出会った多くの人々と学生として過ごす最後の貴重な時間になります。一日も無駄にすることなく、今しかできないことを何か探してみてください。▼学園の歴史に新たな一頁が書き加えられることとなるこの一年が、学園にとっても皆さんにとって素晴らしいものとなりますように。(編集室)

編集委員

- 編集長 吉崎信彦
- 委員 高橋 拓
- 西原正人





「大学基準に適合」の認定マーク

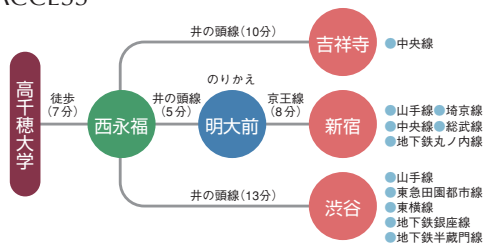
喫煙に関するルールについて

本学キャンパスのある杉並区では、条例により区内全域で、歩きたばこや吸い殻のポイ捨てを禁止（一部の路上禁煙地区では条例違反者から過料を徴収）しています。

本学においても、構内の指定された場所以外での喫煙は禁止とし、また、通学路等での喫煙についても歩きたばこや吸い殻のポイ捨てについては厳重に注意を与えています。

しかし、いまだにルールを守らない喫煙者が多く見受けられ、非喫煙者のみならず近隣住民の方々、ルールを守って喫煙している人にも多大な迷惑を掛けることとなっています。高千穂大学の学生として、節度ある行動をとり喫煙マナーの向上を心がけてください。

ACCESS



- 山手線・新宿駅または渋谷駅から西永福駅（井の頭線）まで13分（新宿駅からの場合は、明大前のりかえ）
- 中央線・吉祥寺駅から西永福駅（井の頭線）まで10分
- 西永福駅から本学まで徒歩7分

CAMPUS MAP



✉ soumu@gac.takachiho.ac.jp

Quarterly 高千穂 Vol.40

Quarterly高千穂 第40号

発行責任者：吉崎信彦 発行：高千穂大学

〒168-8508 東京都杉並区大宮2-19-1 TEL 03-3313-0141

発行日：平成25年1月10日 無断転載・複製不可

